

後山に咲いた 新品種ソバの花

後山地区に新しい風景が生まれた。

同地区は高齢化が進むものの、相互扶助の精神が残る、自然豊かな地である。



後山地区
約30世帯の集落

蕎麦

特集

信州ひすいそばを 支える後山地区

10月18日にデビューした州そばの新ブランド「信州ひすいそば」。その原料となる、長野県8号の種子在後山地区で生産され、県内各地へ送られている。

後山地区の農家は代々受け継いできた農地を活用し、うと新品種「長野県8号」種子在地に播いたのだ。

※種子産：原産をまき、種を生産すること。
この種子が、約40年販売されている。



8

新

品種「長野県8号」は、長野県野菜花き試験場が約10年前に開発した赤緑色のソバである。県内主力品種「信濃1号」と例え、県内1号を掛け合わせ、平成23年に誕生した。この実を親種として作り、赤色が濃いつまみになるため、そば製菓の素材として注目されている。新品種を原料としたそばは「信州ひすいそば」登録商標の名称で10月から提供がはじまり、新たな特産品としてブランド化が進められている。

選ばれた地 諏訪市後山地区

ソバは品種間交雑が起りやすいため、種子生産には適した条件がある。条件は過去にはソバ作りが無いと、蜂が飛び回る周辺半径2キロメートル以内、他のソバ品種が栽培されていないことなど。後山地区は新品種の種子生産の条件に整った地であった。

耕作放棄地から新しいソバ畑へ
今年、県から指定された生産地の指定を受け、後山の農家は長野県8号種子を生産に取り組んだ。地区は高齢化が進み、県道442号沿いには耕作放棄地の田んぼが目立っていた。後山の農家はソバを活用することで省力でき、農地を有効に使うと生産を決め、トラクターを何回もかけて畑として復元させた。耕作放棄地は約3ヘクタール、ソバ畑は約3ヘクタール、耕作放棄地は約3ヘクタールという状況になった。見返えるほどの風景になった。

農協農業改良センターは、種子は食用以上の質が求められるが、みなさんの努力によって仕上がりが良い。県内各地で後山産種生まれた信州ひすいそばをこぞ味わいたきたい。信州ひすいそばの原料「長野県8号」の生産を支える中心地として、後山地区が活躍していくことを、期待している。



2



3



7



5

6

1 後山分校跡上の地。仰ぎ見ると、そこは一面のソバ畑。ソバの花言葉は「あなたを救う」。

2 かつて耕作放棄地だった一帯は人の手が入り、素晴らしい景色に。

3 台風で倒れたソバを慎重に刈る。高い技術力が必要になる。

4 種まきから4日目。芽吹きが早い。

5 小さな花に止まるチョウ。ソバの花は順次開花するので、約1か月間楽しめる。

6 ソバは成熟すると実が落ちてしまう。収穫時期の見極めが大事。

7 待望の収穫にはほえむ、後山そばは組合の藤原幸衛さん。「虫が畑に入らないように何度も見回りをした。出来がよい」と収穫を実感。

8 緑色の種が特徴的信州ひすいそば。

【写真提供：長野県農政課】 諏訪の地で味わえる時が待ち遠しい。